

2月の言葉

冬来たりなば、春遠からじ

この有名な一節は、漢文調で書かれているので、その出典が中国か、日本の古典ではないかと思われがちですが、じつは、英国の詩人シェリーの「西風に寄せる歌」の一節の訳です。じつは誰が訳したのかはつきりしていません。ところで、原文に忠実に訳せば、「冬が来るなら、春が遙か遠いことがあろうか。」という疑問文です。しかし、日本では強い疑問は、反語のように訳すことがよくあります。すなわち、「冬が来るなら、どうして春が遠くにあるだろうか、いやそうではない。」というような感じになります。こうしたことが、前述のような訳につながったのでしょう。

けだし、名訳。寒い冬を乗り越えれば、必ず暖かい春が待っている。そう、試練があるということは、それだけ幸せに近づいたということ。

二月四日は立春。「立春大吉」といって一年で一番縁起のいい日。この寒い冬を元気に乗り越え、希望に満ちた春を迎えましょう。**春はすぐそこです！**

戊戌（つちのえいぬ）年如月朔日